

交友関係を深めるためのニックネーム作成システムの提案

大谷紀子研究室

1232216 吉川 拓実

1. 研究の背景・目的

「ニックネーム」とは、特に親しみを込めて対象を呼ぶために用いられる本名以外の名前的一种である。愛称やあだ名とも呼ばれ、本名や身体的特徴などの様々な要素に由来する。例えば、本名が「吉川拓実（よしかわたくみ）」の場合、「よしたく」や「きっかわ」のように、本名の姓と名それぞれの先頭文字が組み合わせられたものや、実際の読み方とは異なるものなどが付けられる。また、ニックネームは互いの信頼関係を象徴するものとしても認識されている。すなわち、初対面の人同士であっても、ニックネームで呼び合うことによって、より早く親しい関係を築くことができると考えられる。しかし、ニックネームを決めることは難しく、一朝一夕に作られるものではないので、ニックネームを自動で作成できるシステムがあると便利である。

本研究ではニックネームによって人の交友関係を深めることを目的とする。ニックネーム自動作成システムを構築し、ユーザまたはその他の対象がすぐさま打ち解けることができるように促す。

2. システム概要

本システムでは、ユーザの本名から派生するニックネームを作成するため、身体的特徴などの要素は考慮しない。本システムは、トップ画面、情報入力画面、作成処理画面、ニックネーム候補提示画面、リザルト画面から構成される。情報入力画面で氏名、氏名の読み、性別の情報を入力すると、作成処理画面に入力情報と作成中の文字が表示されると同時に、入力された情報を基に複数のルールに従ってニックネーム候補が作成され、5 秒後に自動でニックネーム候補提示画面に遷移し複数のニックネーム候補が表示される。ニックネーム候補を作成するルールを以下に示す。なお、以下のルールは一般によく用いられるニックネームの共通点を抽出して定義したものである。

- ・名前の 2 文字目がア行でないならば名字と名前の頭 2 文字を組み合わせる
- ・名前の 2 文字目が「き」「し」「ち」ならば名前の 1, 2 文字目を用いて『〇っ〇ー』とする
- ・名前の 2 文字目が「う」「ゃ」「ゅ」「ょ」ならば名前の 1, 2 文字目を用いて『〇〇ちゃん』とする
- ・名字の 2 文字目が「き」「し」「ち」ならば名字の 1, 2 文字目を用いて『〇っ〇ー』とする
- ・名字の 4 文字目が「き」「ち」ならば名字の 3, 4 文字目を用いて『〇っ〇ー』とする
- ・名字や名前に性別に対応した呼称や肩書きをつける

以上のルールに従って処理することにより、一般的に呼ばれやすいニックネームが作成される。ニックネーム候補提示画面で気に入ったものを選択すると、選択されたニックネームがリザルト画面に表示されると同時に、作成に使用したルールが記憶される。同一ユーザが連続して同じ人物のニックネームを複数回作成する、あるいは、連続して複数人のニックネームを作成する際には、記憶されたルールが優先して適用される。本手法で作成されたニックネームの例を表 1 に示す。

表1：ニックネーム作成例

氏名	氏名の読み	性別	作成されたニックネーム候補
吉川 拓実	よしかわたくみ	男	よっしー よしたく たくみ たくちゃん
牧野 愛美	まきのまなみ	女	まっきー まなみ まきのん まなピー
森 周平	もりしゅうへい	男	もりしゅん しゅう君 しゅうぞう もり選手
島津 美咲	しまづみさき	女	みさちゃん しまみさ みさちん みさき
西岡 建登	にしおかけん	男	にしけん にっしー けんちゃん にしお

3. 評価実験

大学生の男女12名を被験者として評価実験を実施した。知り合っていない関係の12名が自由に懇談する場面を想定し、システムを使用して各人のニックネームを作成させた。作成の様子を観察するとともに、全員のニックネームの作成が終了した後で、システムからリンクを張られたアンケートページにおいて、ニックネームやシステムの有用性に関するアンケート調査を実施した。アンケート内容は「ニックネームの有無」、「交友を深める際のニックネームの必要性」、「システムの使用感」、「システムの有用性」、「システムに対する意見」である。2～4番目の項目は5段階評価、5番目の項目は自由記述とする。アンケートの結果、12名中7名が「交友を深める際にニックネームはあったほうがよい」と答え、システムの使用感に関しては12名中8名が肯定的な答えを出した。被験者の意見の一部を以下に示す。

良い意見

- ・新しいニックネームが増えた
 - ・候補のパターンは少ないがとても盛り上がったし楽しかった
 - ・変わったニックネーム候補が出てきて面白かった
- 不満を感じるという意見
- ・選択した候補と決定されたニックネームが違っていた(バグ)
 - ・候補が2つしか表示されなかった
 - ・作り直しても変わらない候補があった

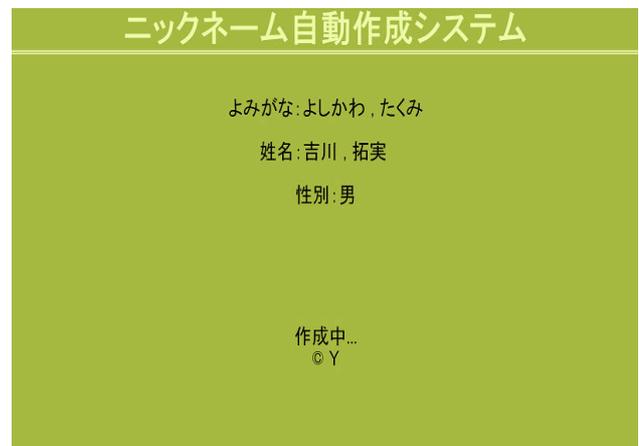


図1：作成処理画面例

4. 考察

評価実験の際、システム使用中の被験者に賑わう姿が確認できた。図1に示す作成処理画面を介し、ユーザの期待を膨らませることにより、作成されたニックネームだけでなく、ニックネーム作成システムを使用することが人の交友関係に良い影響をもたらしたと考えられる。アンケート調査の結果と併せて、本システムの有用性が示されたといえる。しかし、被験者から指摘された意見を受けてニックネーム作成システムを見直す必要がある。指定した候補と決定されたニックネームが異なる問題については、実験後に原因をつきとめてバグは修正されている。また、作り直しても候補が変わらない、表示される候補の数が少ないなどの問題については、ニックネーム候補を作成するルールが少ないが原因だと考えられる。ニックネーム候補の作成ルールを新規追加したり、性別に応じた呼称や肩書きを新規追加したりすることで、様々な氏名や性別に対応が可能となり、問題は改善されると考えられる。